

計測に関するよくある質問から

- 第 33 回 「DS-3000 シリーズ Record File Viewer の使い方」 -

当計測コラムでは、当社お客様相談室によくお問い合わせいただきご質問をとりあげ、回答内容をご紹介します。

今回は、DS-3000 シリーズ リアルタイム音響振動解析システムソフトウェア DS-0320 で、オフライン解析するレコードデータの表示、解析範囲の指定、テキストファイル等へのエクスポートに使用する Record File Viewer の使い方をご紹介します。

●リアルタイム音響振動解析システムソフトウェア DS-0320 の画面と操作

図 1 にリアルタイム音響振動解析システムソフトウェア DS-0320 の画面を示します。

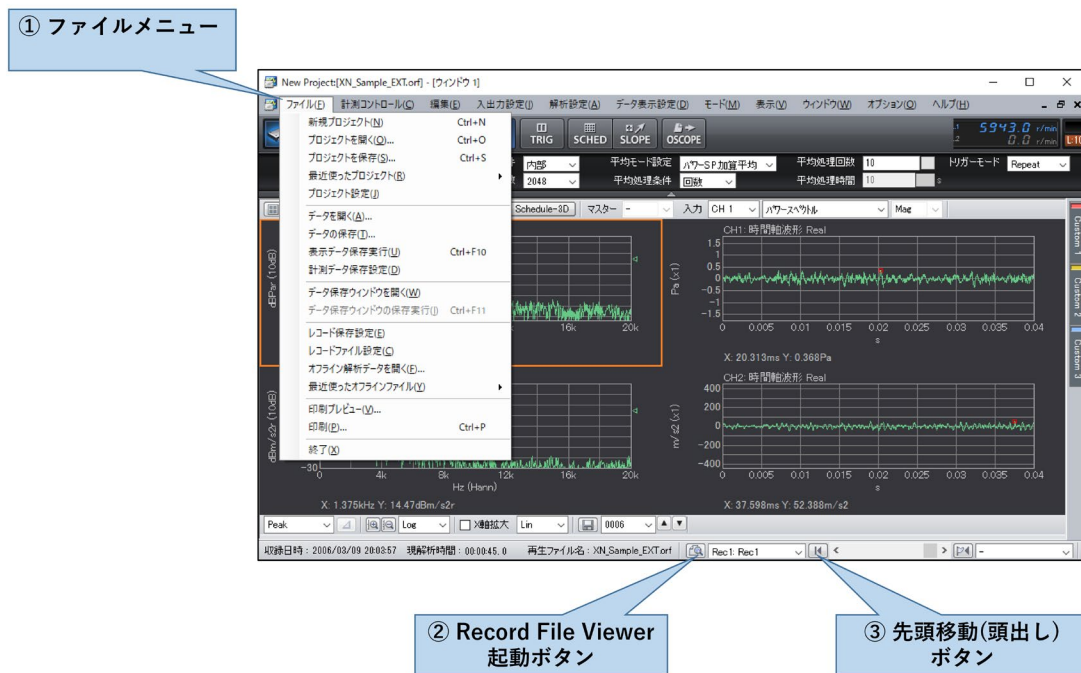


図 1 リアルタイム音響振動解析システムソフトウェア DS-0320 の画面

①ファイルメニュー

同ソフトウェア等で収録した ORF 形式などのレコードデータをオフライン解析する場合や、レコードデータをテキストファイル・WAV ファイルにエクスポートする場合は、ファイルメニューの“オフライン解析データを開く”から、レコードデータを開きます。

②Record File Viewer 起動ボタン

オフライン解析制御ツールバーの“Record File Viewer 起動ボタン”を押すと、Record File Viewer 画面が開きます。

③先頭移動(頭出し)ボタン

レコードデータの先頭から再度オフライン解析をおこないたいときは、オフライン解析制御ツールバーの“先頭移動(頭出し)ボタン”を押してから解析します。

●Record File Viewer の画面と操作

図 2 に Record File Viewer の画面を示します。



図 2 Record File Viewer の画面

①ファイル管理

ファイル管理メニューを開きます。レコードデータをテキストファイル・WAV ファイル等にエクスポートする際は“File Export”を実行します。レコードデータの一部だけをエクスポートする場合は、後述の手順で解析範囲を指定したあとに“File Export”を実行します。

②データエリアレイアウト

波形表示部に表示するトラックの数を指定します。

③入力ソース指定

各トラックに表示するチャンネルを指定します。

④スケール設定

表示スケールを設定します。


⑤表示レコード切替

1 つのレコードファイルには複数回の収録結果(レコード)を記録することができます。DS-0320 の REC ボタンを押したままで、START・STOP を何度か繰り返した場合、そのファイルには複数のレコードが記録されます。“表示レコード切替”で表示するレコードを指定します。

⑥表示範囲を解析範囲に登録

現在表示されている範囲を解析範囲に登録します。

⑦解析範囲、開始位置・終了位置

現在指定されている解析範囲が表示されます。テキストボックスに表示されている数値（時間・分・秒）は直接編集できます。Start・Stopそれぞれのを押すと、現在のカーソル位置が開始位置・終了位置に指定されます。

⑧設定

設定メニューを開きます。Record File Viewer のバージョンの確認と、オンラインヘルプが表示できます。また、ツールチップ等に表示される言語を切り替えることができます。

⑨全範囲表示ボタン、ズームアウトボタン、ズームインボタン

全範囲表示ボタンを押すと現在選択しているレコードの全範囲が表示されます。ズームアウトボタン・ズームインボタンを押すと表示範囲を縮小・拡大できます。

⑩全体波形表示部

現在選択しているレコードの全範囲の時間波形が表示されます。

⑪スケール表示部




時間の目盛（時間:分:秒）と、解析範囲とカーソル位置を示すマークが表示されています。

⑫波形表示部

③で指定したチャンネルの時間波形が表示されます。波形表示部でマウスボタンをクリックするとその位置にカーソルが移動します。波形表示部で左から右にドラッグする（マウスボタンを押し、そのままマウスを右に移動して離す）とドラッグした範囲が拡大表示されます。右から左にドラッグするとズームアウトします。

●解析範囲の指定

Record File Viewer での解析範囲の指定には次の方法があります。レコードデータの一部だけをエクスポートする場合は、これらの手順で解析範囲を指定したあと、ファイル管理メニュー（図 2 ①）の“File Export”を実行します。

- (1) 解析範囲の開始位置・終了位置が決まっている場合は、その時間（時間:分:秒）を、図 2 ⑦ “解析範囲” のテキストボックスに直接入力します。
- (2) レコードデータ全体を解析範囲に指定する場合は、図 2 ⑨ “全範囲表示ボタン” を押した後、⑥ “表示範囲を解析範囲に登録” ボタンを押します。
- (3) カーソル位置を解析範囲の開始位置・終了位置に設定する場合は、図 2 ⑦の開始位置・終了位置のをクリックします。
- (4) 図 2 ⑪スケール表示部の開始位置マーク()、終了位置マーク() を左右にドラッグすると開始位置・終了位置を移動できます。

●まとめ

今回は DS-3000 シリーズの Record File Viewer の使い方をご紹介しました。なお、Record File Viewer のいくつかの機能については説明を省いております。詳細は図 2 ⑧の Help を実行すると表示されるオンラインヘルプをご参照ください。

(YK)